

## 2023 年度第 1 回音環境運営員会議事録（案）

記録：小柳慎一郎（幹事）

日時：2023 年7月4日（火）17:00～19:00

場所：Zoom を用いたリモート会議

出席者：池上雅之（主査）、小柳慎一郎（幹事）、會田祐、上野佳奈子、川井敬二、古賀貴士、坂本慎一（前主査）、佐久間哲哉、佐藤洋、田中学、辻村壮平、富田隆太、豊田政弘、中澤真司、羽入敏樹、濱田幸雄、平光厚雄、星和磨、朝倉巧（敬称略）

欠席者：佐藤逸人（幹事）、古賀貴士、富田隆太、安田洋介（敬称略）

提出資料：

- 資料1 2023年度第1回音環境運営委員会\_\_議事次第
- 資料1-0-0 2023年度第1回音環境運営委員会\_\_活動方針他
- 資料1-0-1 音環境運営委員会名簿（2023～2024年度）
- 資料1-0-2 20230302AIJEES刊行方針検討WG依頼事項\_\_背景説明
- 資料1-0 2022年度第4回音環境運営員会議事録（案）
- 資料1-1 20230704環境工学本委員会資料
- 資料1-2-1 吸音AIJES資料
- 資料1-2-2 集住AIJES資料
- 資料1-2-3 著作者人格権不行使に関する同意書資料
- 資料1-3 2023年度第1回音環境運営委員会\_\_小委活動計画他

### 1) 前回議事録の確認

- ・ 本会は23～24年度の初回であり議事録詳細の確認は割愛する。（資料 No. 1-0）

### 2) 今期体制と活動方針（案）他（資料 No. 1-0-0～2）

- ・ 今期の活動方針案について池上主査が説明を行った。
- ・ 活動体制：主査、幹事、各小委主査、他各分野の代表者
- ・ 活動方針：音環境分野の調査・研究を通じた社会貢献に資するように、小委等の活動状況・課題・成果を共有し、建設的に助言・議論などを行う。
- ・ 活動内容：1) 環境工学本委員会の活動状況・活動方針の共有2) 各小委員会の活動状況・課題・成果の共有、助言3) 音環境運営委員会としての審議事項の審議（必要に応じて）4) 音環境運営委員会としての課題解決の議論（必要に応じて）
- ・ 音環境運営委員会としての中長期課題
  - a. 出版事業に関する件：AIJESの継続性に関するリスク回避、ニーズに応じたトップダウン式の出版活動への協力
  - b. 小委構成に関する件：より良い成果を生み出すための適切な小委構成の議論、改廃調整。小委の活動に関するお願いとして、活動の成果をどのように社会に役立たせるか形態・道筋・スケジュールを想定しながら活動を推進して頂きたい。また、円滑な世代交代を意識し若手委員の育成に配慮頂きたい。

### 3) 環境工学本委員会の報告（資料 No. 1-1）

- ・ 建築学会として対外的な発表を行う場合の手続きは「対外的意見表明にあたっての申し合わせ」に則った手続きを踏む必要がある。
- ・ 既刊刊行物の英文版の刊行には学会から要領が発行されている。
- ・ 24年度の活動計画・予算案の作成について、10/20（金）の事務局締切りに合わせて各小委員会・WGで取りまとめを進める必要がある。別途、具体的な案内を行う。
- ・ 24年度大会は4/3(水)が電子投稿による申込み〆切、大会は8/27(火)～30(金)明治大学駿河台キャンパスにて対面とオンラインを予定（資料によっては9月の案内があるが間違いであるので注意）、オーガナイズドセッションの締切りは23年11/20である。次回の運営委員会(9/29)にて、発表分野（部門・細分類・細々分類）の見直しと併せて調整を行う。

- ・ 電磁環境分野の発表者を増やすため、電磁環境運営委員会より代理発表を認める要望があった。発話障害を持っている方の事前録画での発表などもあり得ると考え、今後本委員会でも審議し意見をまとめる。
- ・ 建築学会文化賞、教育省の推薦依頼があった。提出期限は12/11(月)であり9月の環境工学本委員会に提案するよう依頼があった。
- ・ 本運営委でも議題としてきたAIJESの刊行の継続性のリスクについて本委員会でも取り上げた。(4. 審議事項の中で議題とした)
- ・ 本委員会の開催日程、議事及び本委員会からの依頼事項の一覧が資料1-1の最後にあるので各自確認頂きたい。
- ・ (以下質疑)
- ・ 大賞候補は10月に提出するスケジュールで良いか？昨年までは橋先生を推薦してきた経緯がある。候補者に関する審議は一昨年行い、昨年はその審議結果をもって継続して推薦した。
  - 10月に推薦候補を提出することで良い。審議はいつ頃実施すべきか？
  - 一回では通らないので、本委員会の候補になるまでに時間がかかることを認識したうえで橋先生を推薦してきた。次回の運営委員会ではスケジュールがタイトなのでこの場で審議してはどうか？
  - 継続で良いと考える。他の運営委員会の主査との調整が必要なので早めに決める方が良い。
  - 橋先生を大賞候補に推薦することで決定とする。
- ・ 教育賞は直近では藤本先生(九州大学)が受賞している。10月の本委員会では準備ができている必要があるため、この後でも教育省の候補者に関する議題があればメール審議を行う。

#### 4) 審議事項

- ・ 直営刊行物の絶版(在庫処分)についての意見伺いに関しては6/19メール審議済みではあるが、今後AIJESの出版を重ねるにつれて同様の絶版対象が増えてくる可能性が高い。
- ・ 環境基準作成小委員会に提出する吸音設計AIJESについて、本運営委員会を通して環境基準作成小委員会に承認依頼する計画である。内容について羽入先生から説明があった。(資料 No. 1-2-1)
  - 駅や空港などの公共空間で吸音が不足する空間が多く、吸音に関する規準や設計指針をAIJESとして周知することは重要な方策の一つである。
  - これまで3つのWGを設置し(子供のための音環境、室内音響啓発コンテンツ、吸音設計AIJSE)で吸音不足を解消する方策を議論している。
  - 既刊行の3つのAIJESでも触れられているが、特定の目的に限定されており一般の建築空間に広く適用できるものではないため吸音の規準・設計指針が望まれる。
  - スケジュールは現在、環境基準作成小委員会に概要を提出し承認を依頼し、WDの作成に入る時期にある。
  - タイトルは「建築空間の室内音響設計基準・同指針」とし副題に吸音というキーワードを入れる見込み
  - 執筆者はAIJES検討WGメンバーを想定している。
  - 現状の案の詳細は変わる可能性があるため、まずはここで説明した方針で進めて良いかご審議頂きたい。  
(以下審議)
  - 10月の本委員会への提出を目指してWDの完成を予定されているが実際は3月で間に合う。提出までにシンポジウムや意見交換会を開催し意見を吸い上げることが良い。
  - 用語の選定については小委と連携して決めて頂きたい。また、タイトルに評価が入っていないが評価規準とはしないのか？
    - ◇ 評価は他のAIJESを引用して記載できれば良いと考えている。また、非拡散音場の評価は難しい場合もあり評価立ち入らず設計指針とした。
  - 本件、反対意見がないため本運営委員会にて承認とする。
- ・ 「集合住宅の音環境性能基準・設計指針」の概要を佐久間先生から説明があった。(資料 No. 1-2-2)
  - 赤本は刊行から25年が経過し技術・性格・社会の各側面からAIJES作成が急務
  - 14年には「集合住宅の遮音性能基準」と「集合住宅の遮音設計指針」のAIJES案をまとめられたが、16年にAIJES案をもとにした「考え方」を一般書籍として刊行した。その後、22年度にWGを設置しあらためて見直しを開始した。25年の出版を目指す。

- 序文では赤本との関係を説明する。I部では集合住宅の音環境性能基準をコンパクトに記載し、測定・評価についてはII章に回す。III部は設計指針を記載し「考え方」を踏襲する構成である。
- 本日の資料の最後に意見交換会の資料を添付しているので、参加されていない方はご覧頂きたい。本概要を環境工学本委員会に提出することについてご意見を頂きたい。

(以下審議)

- 前回AIJESを作成しようとしたが合意が得られなかった経緯がある。今回は意見交換会を開催し合意形成に向かっていることを主張し説明していただきたい。
- 反対意見が無かったため、本概要を環境工学本委員会へ提出する。

・「著作者人格権の不行使に関する同意書」について(資料 No.1-3-3)、1)既存成果の棄損リスク、2)人的なリスク、3)法的なリスクがある。1)、2)は各運営委員会で対応する内容で、3)は環境工学委員会全体で対応を取り決めるべき内容である。

- (1)の既存成果の棄損リスクとしては、前回基準が長く使われることで研究、商品開発、実績作りが進み学会を超えた利害関係が生じることで、新しい基準への拒絶が起こる可能性がある。回避方法としては、新旧の基準のメリット・デメリット、新しい基準を導入する経緯、意見交換会などが考えられる。
- (2)の人的なリスクとして、新旧のメンバー間のコミュニケーションや情報・ノウハウ継承が希薄となり、若手が刊行小委員会への参加をためらう原因となる。規準がよくできているほど改定を見送る可能性が高いが、改定する/しないに関わらず刊行小委員会のメンバーの入れ替え/若返りを習慣化することでリスクに対応できる可能性がある。
- (3)の法的なリスクとして、執筆者には著作者人格権があり改定を重ねるほど権利が多重化するし侵害リスクが高まることが考えられる。AIJESのコンテンツにも著作者人格権があり説明の類似性などが著者から指摘される可能性が高い。対策案として著作者人格権不行使への同意書を提出してもらうよう依頼する方針の是非について本運営委員会で賛否を取りたい。既刊のAIJESについてもさかのぼって適用することになる可能性がある。メリットは刊行物の見直しが実施しやすくなること、デメリットは将来、別の執筆者に内容が改編されることで元の執筆者の意図と異なるものが作成される可能性があることである。

(以下、審議)

- 本件は今後AIJESの総則に盛り込まれることになるのか？
  - ◇ 環境分野のAIJESの共通ルールとして運用することになると思われる。AIJES以外の刊行物についても将来改定が見込まれるのであれば適用対象とするかどうか議論することになる。
- 状況についての補足になるが、22年度の最後の環境工学本委員会で同意書を提出することが盛り込まれたフローが承認されている。現在はその詳細を審議しているという位置づけになる。
- 法律などは将来改定されることを前提に執筆されると思うが、本件は同様のことを実施しようとしているのか？
  - ◇ 法律については不明だがJISの作成時には実施していると把握している。
  - ◇ 作成した図表が利用される場合はどうか？
  - ◇ 引用の範囲であれば本件には当たらない。
- AIJES以外にも同意を求めるかどうかは、今後の議論とすることでよいか？
  - ◇ 今後の議論との認識が良い。
- 本委員会への回答として、同意書の提出を求めることに賛成として提出する。

## 5) 各小委員会・WGの活動報告

### ① 固体音小委員会

- ・ 第一回を6/21に開催した。昨年度に引き続きインピーダンスの予測比較を目標とし、計算条件の整理を行った。床材メーカーがカタログで示す床衝撃音遮断性能の表示についてルール作りが必要ではないかという議論があり今後も継続する予定としている。

### ② 集合住宅の遮音性能評価水準検討小委員会

- ・ (欠席のため省略)

### ③ 建築音響測定法小委員会

- ・ 22年度第5回小委を3/6、23年度第1回を5/26に開催し、実験の成果の公表として学会大会、inter noise23に投稿する原稿の内容確認を行った。また、低音域の計測に有効なエネルギー密度計測法についても意見交換を行い計測方法の確立に必要な調査研究について議論した。次回は7/27にハイブリッド開催を予定する。

### ④ 室内音響小委員会

- ・ 前回は6/9(金)にハイブリッドにて開催した。委員の入れ替わりが多いため、各委員から研究内容等を紹介。吸音設計AIJES検討WG羽入主査からAIJESの概要の説明を受け、小委にて承認した。今後の活動計画として、今期から企画広報WG星主査に委員として参加頂き、企画広報WGと連携してシンポジウム等の企画を推進する。また、国交省が改正・公表したバリアフリーに関する設計標準「高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準」に吸音項目を追加することで吸音設計の社会普及が促進されると考え、現在国交省のフォローアップ会議のメンバーに相談を持ち掛けている。建築学会としてどのような資料を盛り込むべきか議論する予定である。

### ⑤ 音響数値解析小委員会

- ・ 23年度第1回を6/28に実施。新しいメンバーが増えたため各委員の自己紹介を行った。議事としては、今年度のスケジュールの確認し、主に伝送系データベースの拡充を行う方針を確認した。また、傘下の重量床衝撃音WGの活動予定としては、8月に重量床衝撃音の計測実験を計画している。数値解析によって得られる結果と比較検討に利用する。次回の委員会は10月上旬で調整中である。

### ⑥ 音環境規準検討小委員会

- ・ 第6回小委を3/9に開催、池上主査のもとでの最後の開催であったので23度のビジョンを共有した。さらに、活動方針の確認、AIJES全体の整備の具体化方策、既刊のAIJESの確認・情報公開、今後の集合住宅並びに吸音に関するAIJESの情報共有を行った。また、絶版対象となった音声伝送AIJESに関するメール審議を行った。次回小委は8月の開催を予定する。集合住宅音環境AIJES検討WGの公開意見交換会を開催した(第1回4/24、第2回5/11、第3回6/24)。24年度の刊行小委の設立を目指し、執筆者候補を調整中である。

### ⑦ 企画・広報 WG

- ・ 4月下旬からアンケートを実施し結果53件のアンケート結果が集まった。得られた回答は今後分析を進める。次回は7/12にハイブリッド開催予定としている。

### ⑧ 実用的遮音計算方法WG

- ・ (幹事不在のため省略)

### ⑨ 子供のための音環境WG

- ・ WGの活動項目の抽出し、各項目に対し担当者を大まかに設定した。文科省の施設整備指針には音に関する記載があるが数値等を用いた具体的な記述がないので関係者へのヒアリングを行うと共にAIJESとの対応表の作成を作成し提案する。他には、施主・事業者向けのパンフレットや設計ガイド作成、施設整備指針についての勉強会、事業者へのインタビュー等の企画を検討している。

## 6) その他

- ① 建築学会賞(論文)を佐久間先生が受賞された。音響学会でも論文賞の募集を行っており、特に音響音環境分野の応募者が少ないため応募を促している状況である。
- ② 司法支援建築会議では、第12回建築紛争フォーラム「近畿地域における建築紛争の現状と課題」を9/14 13:30から京都教育文化センターホールで開催する。対象は裁判官だがご興味があれば無料なのでご参加いただきたい。
- ② 建築奨励賞の委員の平栗先生の連絡で、奨励賞の該当受賞者数はこれまで掲載論文数に基づき人数が割り振られていたが、構造部門からの提案で今後は応募者数に基づいて割り振られる見込みである。

## 7) 他学会・研究会の予定

- ・ (割愛)

## 6) 今後の開催予定

第2回：2023年9月29日(金) 17:00-19:00に開催予定

以上